

KOHAKU

『日本国内 正規総輸入販売代理店』

株式会社コハクジャパン

〒125-0032 東京都葛飾区水元3-22-23

TEL: 03-5876-5058

受付時間 月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日等を除く）（9:00～17:00）



Surron

<https://www.sur-ron.jp/>



Light Bee



User Manual

（日本国内版）

より良い乗り心地を楽しんでいただく為に、車両の走行を始める前にこの取扱説明書を必ずお読みください。電動バイクの特性を理解しないまま使用しないでください。この取扱説明書は大切に保管してください。

TO

SUR-RON 社でデザイン・製造された製品をお選びいただきました全てのお客様へ

お客様の信頼、ご愛顧を心より感謝申し上げます。

皆様、共に最高級の電動バイクを実現させていきましょう。

お客様へ

私たちの製品をお買い上げいただきありがとうございます。

弊社製品をご使用いただきますお客様からのアドバイスやご提案を心からお待ちいたしております。

お客様のご満足こそ、弊社社員の全員が大切にしているところでございます。

SUR-RON 社は電動バイクの設計と製造におけるプロ集団です。斬新なデザイン、乗り心地の良さ、容易な操作性、力強さ、1回の充電での長い走行距離、優れた安全制御機能と信頼性などの実現により電動バイクは環境負荷ゼロ時代の新しい乗り物に成長していきます。

お客様に、より良い乗り心地を提供する為に、走行を始める前に本マニュアルを必ずお読みください。車両性能やメンテナンス手法の完全なご理解が、最高性能の保持、不具合などの最少化と車両寿命の最長化を実現してくれます。お客様の大切な車両は、本車両の乗り方を理解していない方には決して貸し出されないようにお願いいたします。

車両に乗られる際には必ずヘルメットを装着し、正しい走行レーンにおいて交通法規を順守して走行してください。

雪の日や滑りやすい路面に乗り出す場合には、安全の為、車間距離を充分にとって走行してください。

SUR-RON 社は電動車両の継続的な進化、改良の為、生産ロットの違う場合に仕様や使い方などに変更を施す場合があることをご理解ください。また、本マニュアルの内容における文脈の最終的な判断はSUR-RON 社が行います。

航続距離を伸ばす運転のコツ

電動バイク「light bee」の航続距離は、ガソリンエンジンバイクに近いレベルになってきています。

バッテリーの消耗は運転の仕方、環境条件（極端な寒さや暑さ、急な坂道など）に影響されます。1回の充電で最大の航続距離を得るためには、一定の速度で走行することが有効です。一定の速度を保つことで、最大限の航続距離を確保することができます。

安全な走りを実現するためには、以下のようなことが必要です。

1. 頻繁に激しい加速や減速をしないこと。
2. スロットルの握りを緩めるとブレーキを使わず減速することができ、エネルギー回生ブレーキにより速度が低下し、回収されたエネルギーがバッテリーパックに戻されます。
3. タイヤの空気圧は推奨値 225KPa (2.25kg- cm^2) に設定。
4. 不要な荷物を取り除き、積載量を減らす。
5. 冬期と夏期の走行距離には違いが生じます。

上記のいくつかの要素と自分の運転を組み合わせ、航続距離を安定させることができます。

注) オフロードでは、路面状況により走行距離が短くなります。



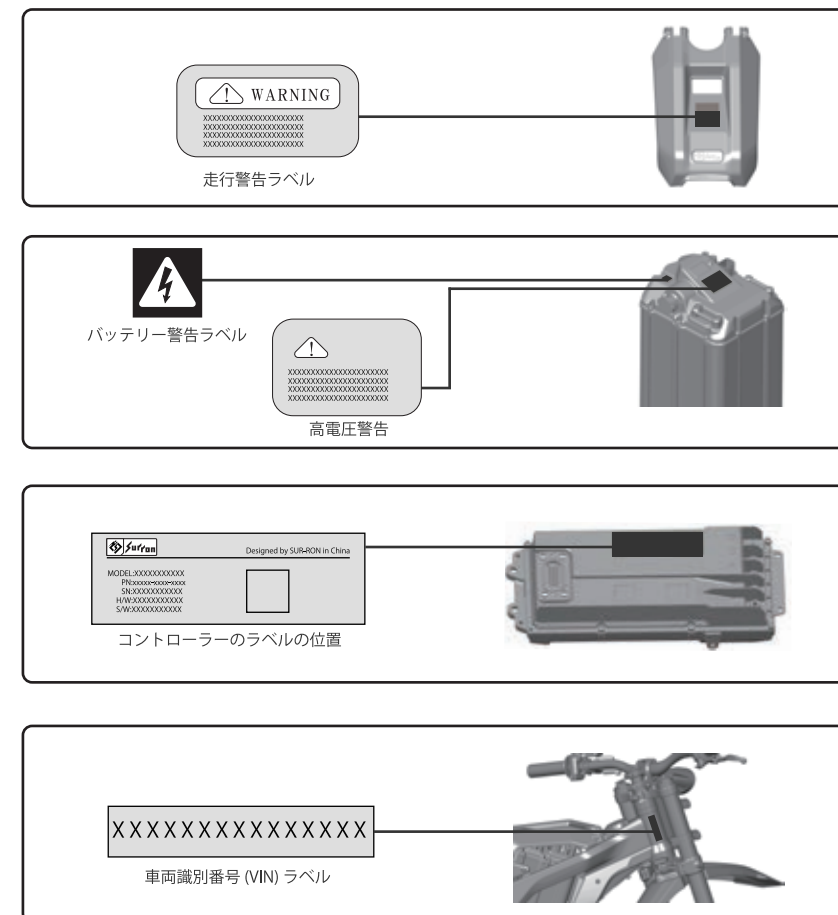
ラベルの位置	1
安全についての案内	2
乗車の必要要件	3
乗車前点検	4
乗車方法	5
Light Bee機能図	6～11
導入手順	
ハンドルバーの取り付け	12
Light Beeヘッドライトの取り付け	12
フロントブレーキ・スロットルの取り付け	13
スロットルケーブルの取り付け	14
前輪の取り付け	15～16
ナンバープレートの取り付け	17
フロントフェンダーの取り付け	17
運転方法	18
ブレーキング	18
パーキング	19
バッテリーの取り付け	20
乗車前の十分な準備	21
タイヤの点検	21
ホーンやブレーキ等機能の点検	21
ハンドルバーの点検	21
ジョックアブソーバの調整	21
一般的な操作	21

目次

目次

低出力モード	22
動作環境	22
水没走行	22
各コンポーネントのIPレベル	22
充電方法	
充電	23
バッテリーの取り外し充電	23～24
充電時の注意	25
仕様	26～27
車両電装システム	28
トラブルシューティング	29～30
メンテナンスガイド	31
部品の確認	31
日常点検	32
バッテリーの点検	33
充電と充電器について	33
モーター・コントローラーのメンテナンス	34
ヒューズ交換	34
保証条件と保証期間	35～39
アフターサービス記録表	40～45
保証書	46

ラベルの位置



安全についての案内

- 現地の法律により、公道及び自転車レーンへの乗り入れは禁止されている場合があります。
- 高性能電動オートバイのため、細心の注意を払って取り扱う必要があります。お客様は、お住まいの地域の法律を知り、関連する法律と交通規則を遵守する義務があります。
- Light Bee L1e-C で公道を走行する場合は運転免許書が必要になり、専門的なトレーニングを受けて適切なオートバイの運転技術を習得することをお勧めします。
- 電動バイクを操作する前に、このユーザーズマニュアルに記載されているすべての警告と製品の説明、および安全ラベルをお読みください。安全運転の大前提であるバイクの基本的な乗り方と構造を理解するために、明るく安全な場所で練習してください。
- 他人を電動バイクに乗らせる場合は、このバイクに慣れていない人には貸さないでください。乗車前には必ず説明書を読み、理解している事を確認してください。自分の行動に責任を負いたくない、または責任を負うことができない人は、このモーターサイクルを使用しないでください。バイクの操作中は運転者がすべての責任を負います。
- 地域で承認されたヘルメット、ゴーグル、乗馬用ブーツ、手袋、保護具などの適切な安全装備を乗車中は着用して、怪我の危険性を減らしてください。
- 建物内、避難階段、通路、非常口には駐車しないでください。
- 地域の火災危険規則および法律に従ってください。住宅での充電や駐輪はしないでください。充電は可燃物から遠ざける必要があり、決して過充電しないでください。
- 本製品は 1 人乗りです。
- 乗車の際は、袖口の締まった明るい色の服装で、スリッパやハイヒールを着用しないでください。
- 本製品は電気部品を多く使用しておりますので、長時間雨中に放置しないでください。
- 洗車時は必ずバッテリーを外して洗車してください。直接バッテリーを高圧洗浄しないで下さい。
- 電池を水に浸さないでください。(外観が損なわれると、バッテリーの防水性能が損なわれます。) 水深がホイールの中心を超えることはできません。バッテリーが損傷し、重大な怪我を負う可能性があります。上記の状況下でバッテリーを充電することは禁止されています。火災、燃焼、さらには爆発の原因となります。

- Light Bee を改造すると、車両の安全性が損なわれ、重大な怪我を負う可能性があります。安全のため、メーカーの許可なく本製品を改造しないでください。サーロン社に承認されていない改造に対して責任を負いません。バイクの部品を交換する必要がある場合は、購入販売店にお問い合わせください。
- アラームまたは警告コードが表示された場合は、すぐに使用を中止し、購入販売店にメンテナンス サービスを依頼してください。

乗車の必要要件：

- 異常気象時や体調不良時は乗らないでください。雨天・降雪時は制動距離が長くなりますので、大雨などの悪天候での走行は避けてください。
- 複雑な道路状況では、ゆっくりと慎重に走行してください。でこぼこの道、濡れた道、急峻な坂道、急カーブなどを高速で走行すると、コントロールを失い、衝突、転倒、けがの原因となる場合があります。
- 大雨や水たまりのある場所での走行は避けてください。道路の水深がホイールセンターを超えると、モーターやブレーキの機能に影響を与える可能性があります。このバイクは雨や雪の中で使用できますが、長時間の運転には適していません。推奨水深は 20cm 以内です。
- 本製品の使用温度は -10~45℃、保管温度は -10~50℃です。推奨される保管温度は 10° C から 30° C (50° F~86° F) です。上記の範囲内の温度で保管または走行してください。
- 次の方は乗車できません
 - I. モーターサイクル用の運転免許を持っていない方。
 - II. 妊娠中の女性または病気のために激しい活動が出来ない方。
 - III. アルコールまたは薬物の影響下にある人

乗車前点検

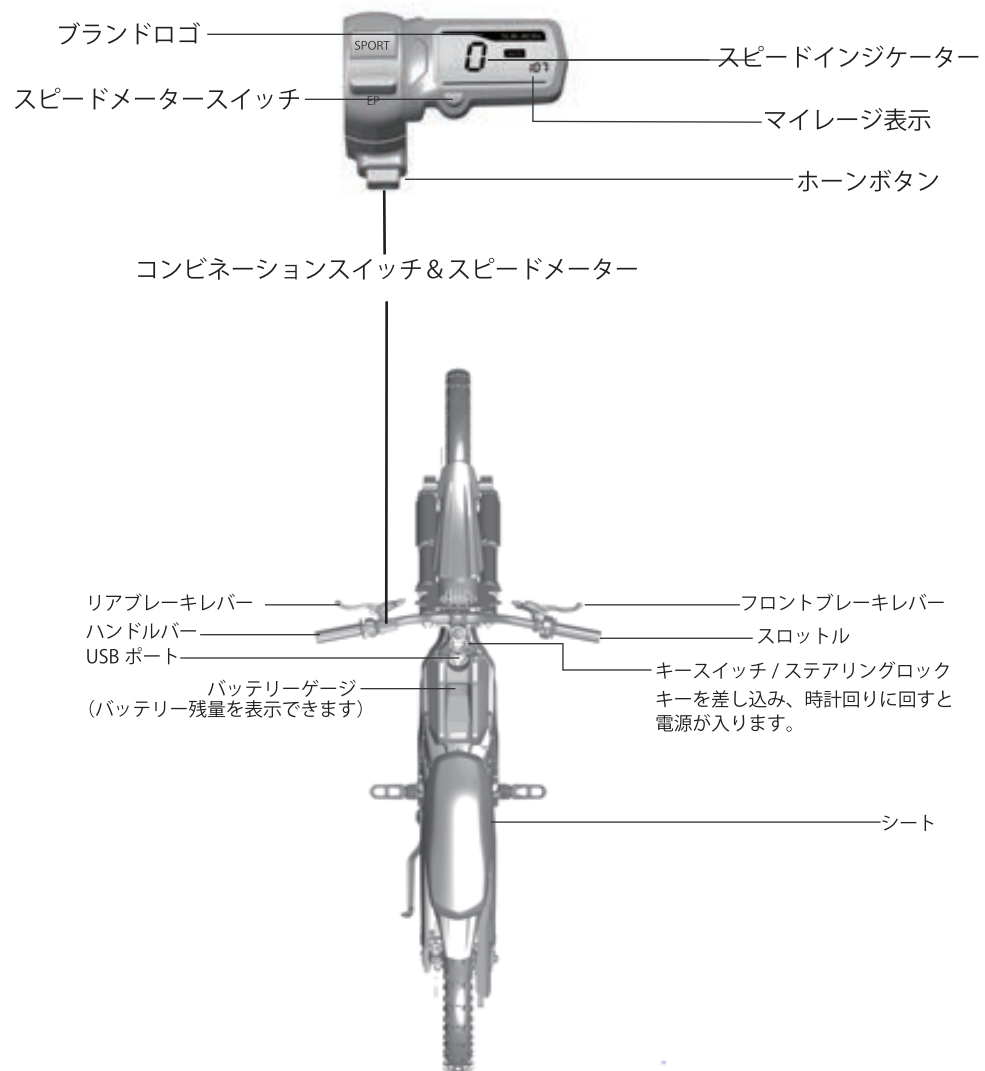
- タイヤにひび割れ、異常摩耗、釘、小石、ガラス等の異物がないことを確認してください。
- 通常の走行には 225kPa のタイヤ空気圧が必要です。
- 車軸のネジが締まっていることを確認してください。
- ハンドルバーと前後輪が固定されているか確認してください。
- リフレクターが破損、汚れていないか確認してください。
- 電源回路、点灯回路の状態を確認し、正常に動作することを確認してください。
- 前後ブレーキシステムが正常に作動するか確認してください。
- バッテリー容量が走行条件を満たしていることを確認してください。
- スポークのトルク確認：緩んでいる場合はすぐに増し締めして下さい（1.5N-m ～ 2.5N-m）。
- スロットルが固着せずスムーズで、正常にアイドル位置に戻るか確認してください。
- チェーンの状態を確認して下さい。通常の状態では、チェーンには浮きスペースがあります。
定期的にチェーンを清掃し、注油してください。
- ベルト状態の確認：ベルトサイレンサーを使用することで異音を解消することができます。
異物がある場合はベルトを清掃してください。
- フロントフォークのインナーチューブが汚れていないか確認してください。
- リアサスペンションのインナーチューブが汚れていないか確認してください。
- 前後ブレーキが正常に制動できるか、ブレーキケーブルに損傷がないか確認してください。

乗車方法：

- 乗車中は、携帯電話、カメラ、イヤホン、耳栓等を使用しないでください。
- この取扱説明書に記載されている追加の警告と製品の説明をすべてお読みください。電動バイクを操作する前に安全ラベルを確認してください。バイクを十分に理解し、安全なライディングの前提である基本的な乗り方とその構造に慣れるために、オープンで安全な場所を見つけて練習してください。地域で承認されたヘルメット、ゴーグル、乗馬用ブーツ、手袋、保護具などの適切な安全装備を着用して、潜在的な怪我のリスクを軽減する必要があります。現地の法律および規制に沿って走行して下さい。
- 通常走行時は、節電のため急発進や急ブレーキはしないでください。
エコ運転をする事はバッテリーの消費及びバイク部品の消耗を抑える事ができ、航続距離と耐用年数を改善します。
- 走行中に異常が発生した場合は、直ちに走行を中止してください。異常の原因が特定され、修理されるまでは、この製品を使用しないでください。すぐに最寄りの正規販売店にご連絡ください。

Light Bee 機能図

このマニュアルに従って実車のバイク部品をご確認ください。



エコモード

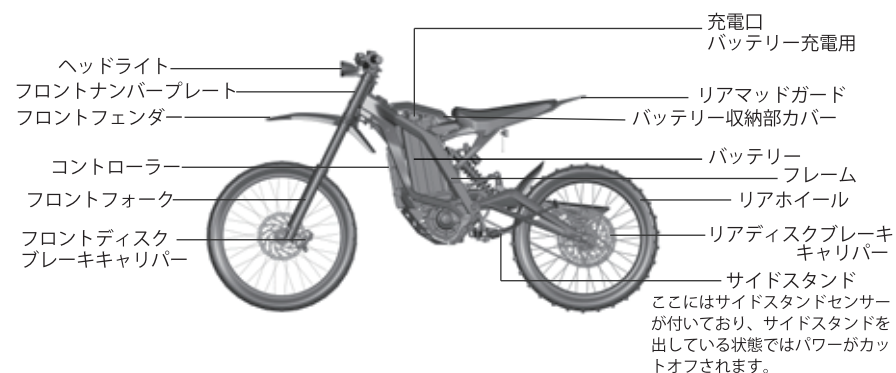
バイクのパワーと最高速度を制限し、初心者や長距離走行が必要な場合に適しています。

スポーツモード

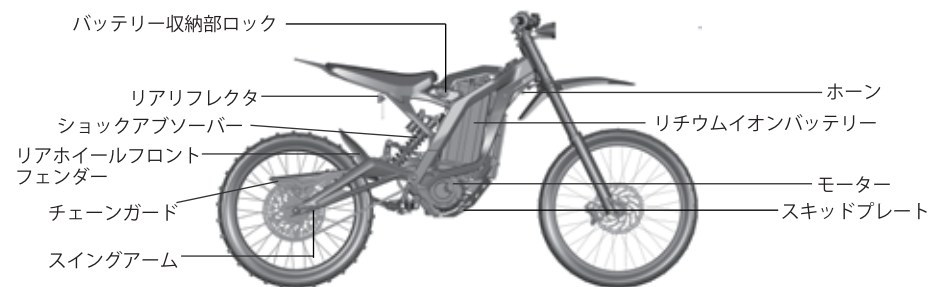
トレイルやオフロードでのライディングに適したフルパワー出力。

スピードメータースイッチ：

- スイッチを短く押すと、最高速度と走行距離が表示されます。
- 長押しすると、最高速度と走行距離がクリアされます。
- スイッチを押し続け、キースイッチをオンにします。バイクの電源を入れた後、スイッチをさらに 4 秒間押し続けると、速度計の表示が時速キロメートルから時速マイルに切り替わります。



注意：モーターまたはコントローラーの温度が高すぎる場合、またはバッテリーの電量が少なすぎる場合、バイクは自動的に出力を低下させます。



注意：メンテナンスとサービスの目的で、各バイクには固有の VIN 番号とモーター番号があります。これらの番号を適切に保管してください。VIN 番号はステアリングチューブに、モーターのシリアル番号はモーター本体に刻印されています。

図 1

- 図 1-① フロントブレーキレバー (CBS)
- 図 1-② スロットルグリップ
- 図 1-③ ペダル
- 図 1-④ シートクッション
- 図 1-⑤ サイドスタンド
(安全スイッチ機能付き)
- 図 1-⑥ コンビネーションスイッチ
- 図 1-⑦ 液晶パネル
- 図 1-⑧ ハンドルバー
- 図 1-⑨ 電池残量表示 LED
- 図 1-⑩ USB インターフェース (5V2.4A)
- 図 1-⑪ メインスイッチ
- 図 1-⑫ リアブレーキレバー
(ブレーキレバーはその操作により 始動準備のスイッチを兼ねる場合がある。)
- 図 1-⑬ フロントターンシグナル
- 図 1-⑭ 後方ミラー
- 図 1-⑮ リアターンシグナル
- 図 1-⑯ ナンバープレート用ブラケット

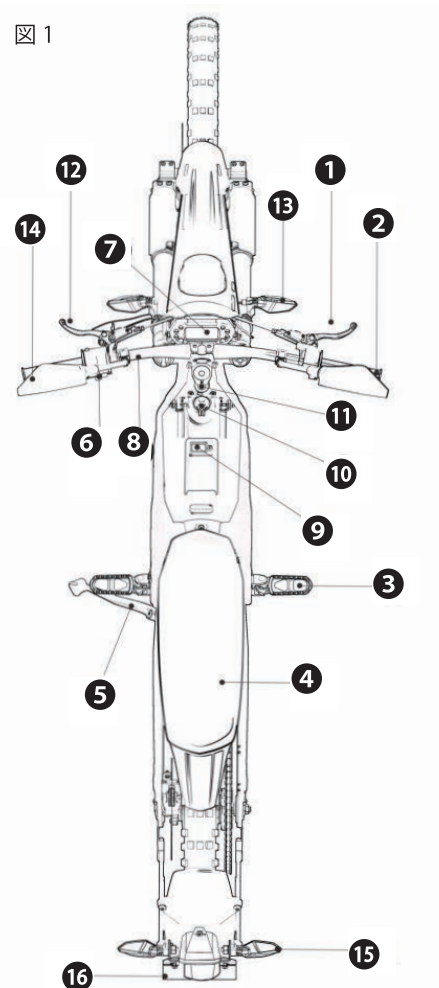
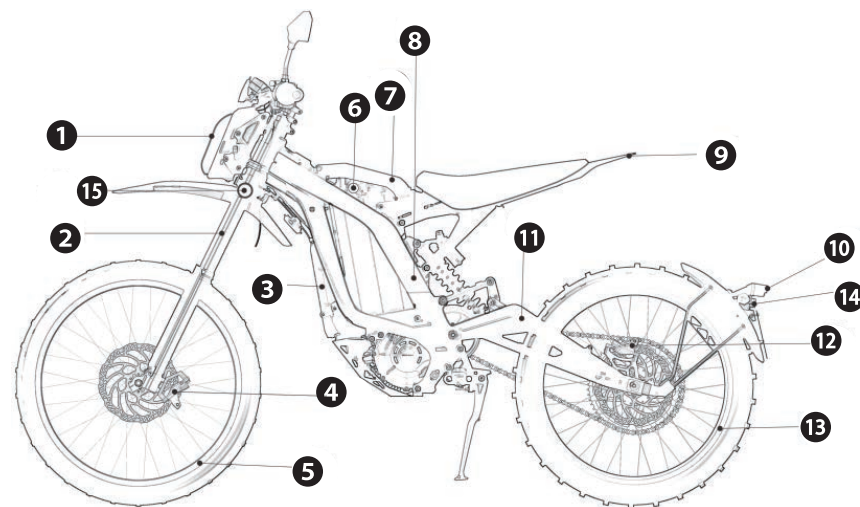
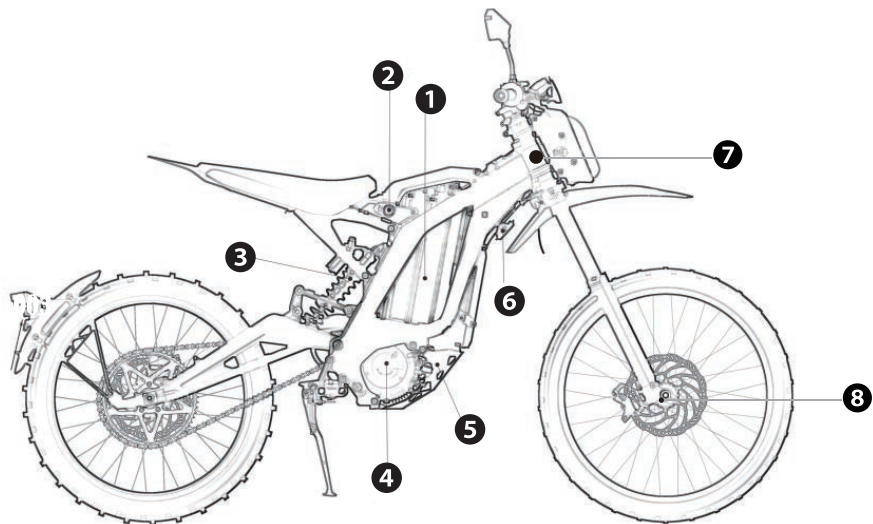


図 2



- | | |
|----------------------|-------------------|
| 図 2-① ヘッドライト | 図 2-⑨ リアフェンダー |
| 図 2-② フロントショックアブソーバー | 図 2-⑩ テールランプ／反射板 |
| 図 2-③ コントローラー | 図 2-⑪ スイングアーム |
| 図 2-④ ディスクブレーキキャリパー | 図 2-⑫ リアブレーキキャリパー |
| 図 2-⑤ フロントホイール | 図 2-⑬ リアホイール |
| 図 2-⑥ バッテリー充電口 | 図 2-⑭ リアリフレクタ |
| 図 2-⑦ バッテリー室 保護カバー | 図 2-⑮ サイドリフレクタ |
| 図 2-⑧ メインフレーム | |

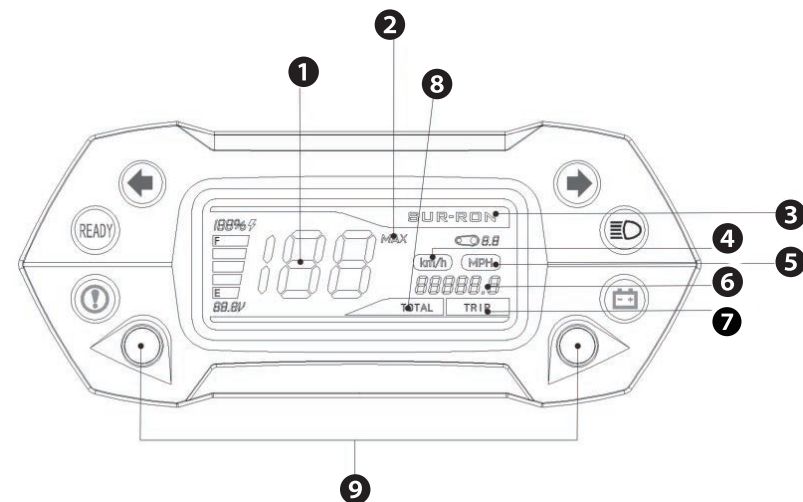
図 3



- 図 3-① リチウムイオンバッテリー
- 図 3-② バッテリー室のロック
- 図 3-③ リアサスペンション
- 図 3-④ モーター

- 図 3-⑤ スキッドプレート
- 図 3-⑥ ホーン
- 図 3-⑦ フレーム番号
- 図 3-⑧ フロントブレーキディスク (CBS)

図 4



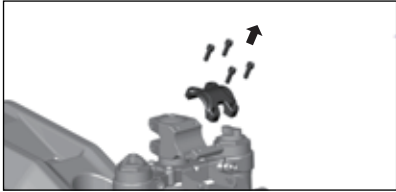
- 図 4-① 現在速度
- 図 4-② 最高速度
- 図 4-③ ブランド名
- 図 4-④ Km 時速表示
- 図 4-⑤ mile 時速表示

- 図 4-⑥ 走行距離計
- 図 4-⑦ 今回の積算距離表示
- 図 4-⑧ 総走行距離表示
- 図 4-⑨ 距離計操作ボタン

手順説明

ハンドルバーの取り付け

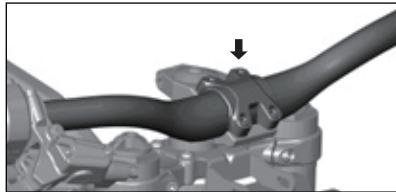
1. 4mm 六角レンチを使用して4つのネジを緩めて外し、ステムバーを取り外します。



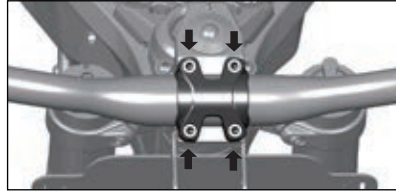
2. ハンドルバーにフロントブレーキとスロットルを固定します。



3. ハンドルバーを取付、ステムキャップを固定し、個人の乗り方に応じてハンドルバーの角度と位置を調整します。

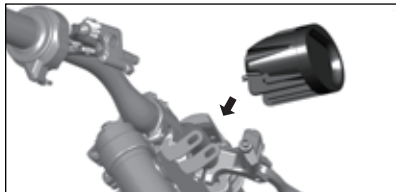


4. 4本のネジを6～8 Nmのトルクで締めます。

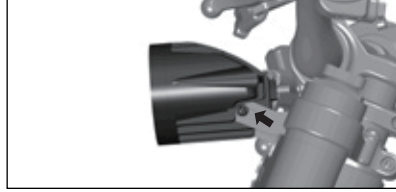


Light bee X- ヘッドライトを取り付ける

1. フロントフォークにフロントライト取付金具を取り付け、そこにヘッドライトを取り付けます。

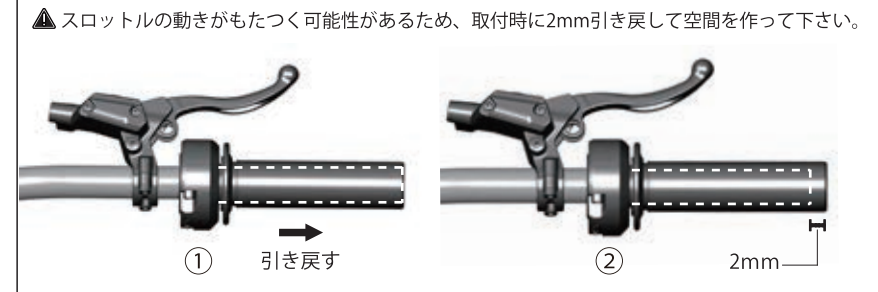


2. 位置を調整し、両側のネジを締めます。

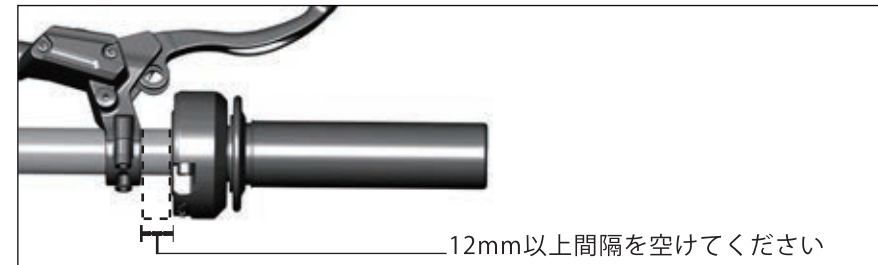


フロントブレーキ・スロットルの取り付け

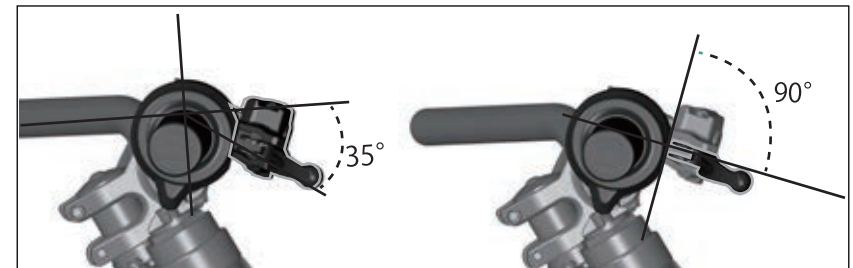
1. 写真のように、スロットルを取り付けた後、2mm 戻します。
2mm 戻さないとスロットルを回した時にもたつきが発生します。



2. 図のように、フロントブレーキシリンダーとスロットルグリップの隙間を12mm以上空けて下さい。(個人の乗り方に合わせて調整できます)。

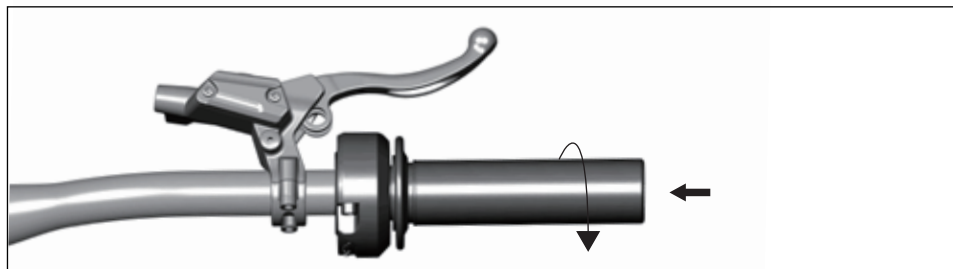


3. フロントブレーキレバーとスロットルの干渉を避けるため、フロントブレーキレバーはスロットルケースの平面に対して垂直になるようにしてください。(個人の乗り方に合わせて調整できます)。



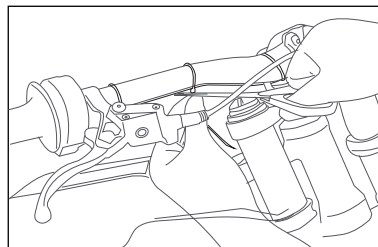
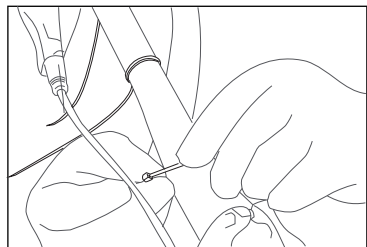
フロントブレーキ・スロットルの取り付け

4. 4mm、5mm の六角レンチをそれぞれ使用して、スロットルとフロント ブレーキを締めます。
締め付け後、スロットルが自然に元の位置に戻るように調整します。(引っかかる場合は、ス
ロットル位置とケーブル位置を確認してください。)



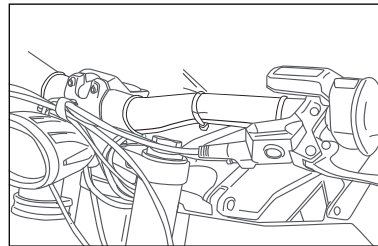
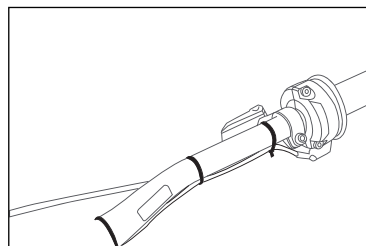
スロットルケーブルの取り付け

1. 写真のように、スロットルのケーブル、左コンビネーションスイッチ、スピードメーターの
ケーブルをハンドルバーにそれぞれタイラップで固定し、余分をカットします。



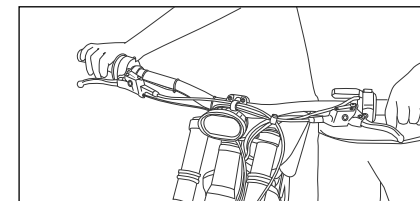
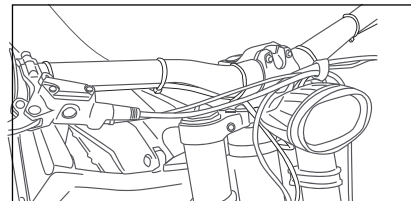
2. ケーブルを整理して、チューブの周りに曲がりがないことを確認します。

注意：リアブレーキホースとコンビネーションスイッチケーブルの固定にはタイストラップ
を使用してください。

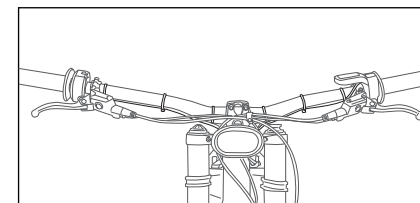
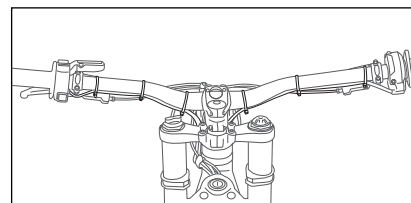


注意：リアブレーキホースとコンビネーションスイッチケーブルの固定にはタイストラップを
使用してください。

注意：ケーブルを固定したら、ハンドルバーを回転させてテストし、すべてのワイヤリ
ングハーネスが引っ張られていないことを確認します。

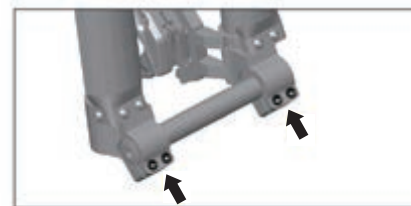


注意：ヘッドライト、フロントブレーキ、およびスロットルのケーブルを一つにまとめ
て固定はしないで下さい。



前輪の取り付け

1. 4つのフロント アクスルロック ボル
トを緩めます。フロントフォーク先
端を 4mm 六角レンチで締める。



2. 8mm 六角レンチを使用して、両側のフ
ロントアクスルロックナットを取り外し
ます。ゴムハンマーで軽く叩いてフロ
ントアクスルを外します。

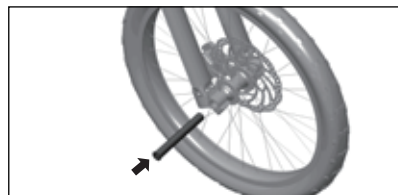
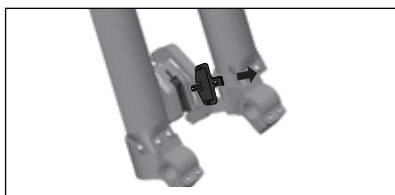


前輪の取り付ける

3. 両側の前輪ブッシングを慎重に取り付けます。ブッシングが適切に取り付けられ、すべてのシールが適切に配置されていることを確認してください。ブッシングは自由に動くことができます。注意：シールリングを傷つけないでください。



4. ブレーキ キャリパー クランプブロックを取り外し、前輪をフロント フォークの前輪取り付けポイントに配置します。
※ブレーキディスクとブレーキキャリパーの位置には十分ご注意ください。
5. フロント フォークを介してフロントアクスルを取り付け、次にフロントホイールを介して取り付けます。
※個人の乗り方に合わせて調整可能です。



6. 左右のロックナットを 8mm で固定するインナー六角レンチ。
※滑り止めとしてネジ 4 本を仮締めしてあります。
7. 六角レンチでフロントフォーク底部の 4 つのボルトを締めます。



事故を防ぐために、しっかり座る前にスロットルをひねらないでください。サイドスタンドはバイクを支えるために使用されます。完全に乗車する前にサイドスタンドを上げないでください。

ナンバープレートの取り付け

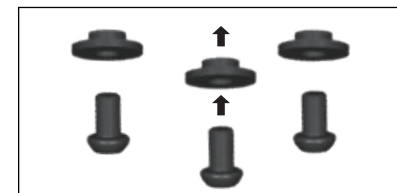
1. 写真に示すように、4 つの 200 mm ケーブルタイをフロント ナンバー プレートに取り付けます。
2. フロントフォークにナンバープレートを取り付けます。
※ワイヤーハーネスを後ろに隠すことができます。



安全のため、フルカバーのオフロード保護ヘルメットと保護具を着用してください。すべての安全対策を講じ、バイクに不慣れな方やバイクに乗れない方への貸し出しはご遠慮ください。ハンドルバーから片手または両手を離して運転したり、飲酒後の運転は危険です。

フロントフェンダーの取り付け

1. 図のようにボルト 3 本と T 型ガスケットを外します。
2. 取外し後、図のように T 型ガスケットの向きに注意してボルト 3 本にそれぞれ T 型ガスケットを仮付けします。

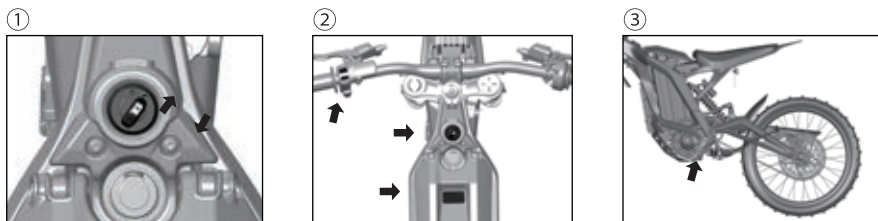


3. フロントフェンダーを取り付けます。5mm 六角レンチで 5 N.m. でネジを締めます。



運転方法

1. キーをキースイッチに挿入し、スイッチを回します。
2. 各スイッチ、メーター、ホーン、ブレーキ、電装部品が正常に機能するかどうかを確認します。
3. モーターを始動する前に: サイドスタンドをたたみ、しっかりと座り、速度を制御するためにゆっくりと内側に向きを変えます。



スロットルを制御することにより、速度を上げたり、加速度を減らしたりします。後方回転は加速を意味します。正転は減速を意味します。



加速はスムーズかつ穏やかに行う必要があります。バイク部品の損傷や事故の原因となる可能性がある場合は、乱暴に操作しないでください。初めて乗車する場合は、エコモードを使用することをお勧めします。スポーツモードは、バイクに慣れたときに使用することをお勧めします。

ブレーキング

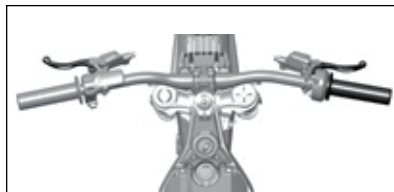
①LightBee X

右ブレーキレバーがフロント、左ブレーキレバーがリアのブレーキキャリパーと連動しています。スロットルを離し、ブレーキレバーを引くと減速して停止します。

②LightBee L1e-C

CBS(Combined Brake System): 前後輪連動ブレーキシステム搭載。

右ブレーキレバーがフロント、左ブレーキレバーが前後ブレーキキャリパーと連動しています。



- 走行時、右フロントブレーキレバーで急ブレーキをかけすぎると、横転する恐れがあります。
- 走行時、左リアブレーキレバーで急ブレーキをかけすぎると、横滑りする恐れがあります。



実際の状況に応じてブレーキレバーの握力をコントロールし、徐々に力を加えてください。車輪がロックして重大な損傷を引き起こす可能性がある場合は、過度のブレーキをかけないでください。事前に路面状況を十分に判断し、特に雨天時の路面が滑りやすく非常に危険な場合は、急ブレーキや急なハンドル操作は滑ったり転倒の原因となりますので避けてください。



乗車中にバイクが転倒した場合、転倒センサーのパワーカットオフ機能が作動するのは正常です（パワー出力が遮断され、バイクを立て直して車両を再起動すると回復します）。安全のため、バイクを持ち上げる前にキースイッチをオフにしてください。誤ってスロットルを捻り大けがをする可能性があります。

パーキング

道路状況に注意し、駐輪場に近づく際は速度を落としてください。バイクが止まったら、キースイッチを切り、キーを抜いてください。サイドスタンドを出してバイクを支えます。誤ってスロットルを捻り大けがをしないように、駐車するときは必ずキースイッチをオフにしてください。バイクから離れるときは、キースイッチをオフにしてキーを抜いてください。

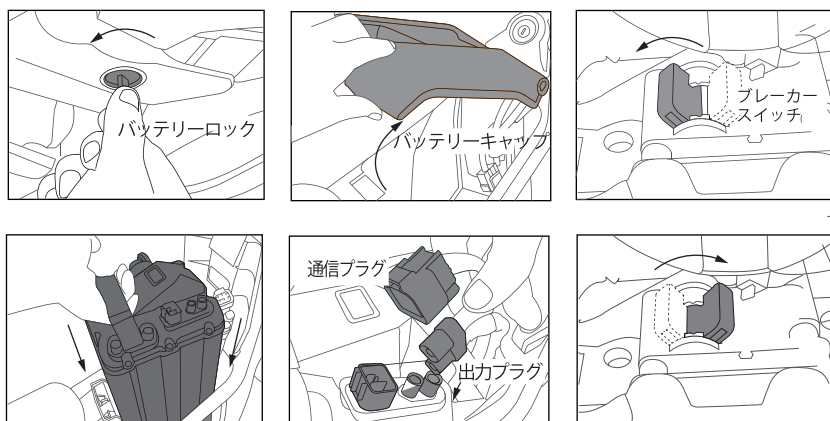


誤ってスロットルを捻りケガを負わない用に、駐車時は必ずスイッチをOFFにしてください。

- ・複雑な道路状況では慎重にゆっくり走行してください。
- ・バイクに運転者以外の人や物を乗せることは禁止されています。
- ・疲れているときや悪天候のときは乗らないでください。
- ・水没させないで下さい。
- ・バッテリーが損傷したり、重大事故につながる可能性があります。
- ・両手でしっかりハンドルを握り、スピードは出しすぎないようにしてください。
- ・曲がる前に減速してください。
- ・乗車中は携帯電話、カメラ、イヤホン、耳栓等を使用しないでください。

バッテリーの取り付け

1. バッテリーカバーを開け、バッテリーを取り出します。
キーをバッテリー収納部ロックに挿入し、反時計回りに回してロックを解除します。
バッテリーカバーを開けてブレーカースイッチを倒して OFF になっていることを確認します。
2. バッテリーをバッテリー収納部に入れます。本体左側面に充電ポートが来る向きになります。
3. 主電源プラグと通信プラグを接続します。
4. ブレーカースイッチを ON にし、バッテリーのキャップを閉め、キーを抜きます。



破損や危険を避けるため、バッテリーを分解せず、キースイッチがオフになっていることを確認してください。

乗車前の十分な準備

3 ページの内容をよくお読みいただき、以下の項目をよくご確認ください。

タイヤの点検

両方のタイヤが良好な状態であることを確認してください。

通常のタイヤ空気圧は 32.6 psi (225 kPa) です。タイヤの空気圧が低いと、異常な摩耗、ステアリングの不良、速度の低下、航続距離の短縮につながります。タイヤの空気圧が極端に高いと、異常な摩耗、乗り心地の悪化、さらにはタイヤの損傷や破裂につながります。

ホーンやブレーキ等機能の点検

機器すべての機能が正常に表示されるかどうかを確認します。

ホーンが正常に作動するか確認してください。左右のブレーキレバーをそれぞれ握り、前後のブレーキが正常に作動するか確認してください。

ハンドルバーの点検

ハンドルバーを締め付けて固定し、左右に動く事を確認してください。

ショックアブソーバーの調整

実際の状況に応じて前後のショックアブソーバーを調整してください。

一般的な操作

車両が動作しない（電源は入っているがモーターが動かない場合）

- サイドスタンドスイッチ（サイドスタンドを出した状態では出力がオフになります）
- 転倒センサー（転倒 1 ～ 2 秒後、チルトスイッチにより出力がカットされます）
- モーターの過熱
- バッテリーの過熱
- 低バッテリー容量
- コントローラーの過熱

低出力モード

バッテリー容量が約 15% 未満になると、コントローラーは出力を下げたバッテリーを保護し、SPORT モードは使用できなくなります。

※バッテリーの状態により、バッテリーのパーセンテージ表示が正確でない場合があります。バッテリー容量が 5% 未満の場合、高負荷（急加速や急な坂道の乗り坂など）により、コントローラーが低電圧保護に入り、バイクは走行を停止します。充電が間に合わない場合、バッテリーはいつでも過放電保護モードに入る可能性があります（過放電保護はセルを効果的に保護するため、充電によって再起動する必要があります）。

コントローラーの過熱（作業温度が 85° C (185° F) を超えると、バイクは出力を下げたエコモードに入ります。過熱が継続して 100° C (212° F) を超えると、コントローラーは電源を切ります。出力。）モーターの過熱（作業温度が 130° C (266° F) を超えると、バイクは出力を下げたエコモードに入ります。過熱が 150° C (302° F) を超えると、出力を遮断します。）

動作環境

気温が 0° C (32° F) 未満の場合、バッテリー容量は通常の 80% 程度まで容量低下する可能性があるため、SPORT モードでの走行はお勧めできません。

気温が 40° C (104° F) を超える場合は、フルパワーで長時間走行しないことをお勧めします。

水没走行

Light Bee オフロードバイクの電気部品は、すべて基本的な防水仕様に設計されています。

渡河水深は 20cm 以下で、長時間水没することはできません。

特にモーターが高温の場合、バイクが水中にあると、内部の空気が収縮し、オイルシールから吸水されて破損につながります。

各コンポーネントの IP レベルは次のとおりです。

- バッテリー、モーター：IP65
- コントローラ：IP67
- コネクタ：IP55

充電方法



0° C (32° F) 未満でバッテリーを充電しないでください。バッテリーが損傷する可能性があります。充電に適した温度になるまでお待ち下さい。バッテリーのリサイクルと使用方法：損傷したバッテリーや使用済みのバッテリーは、許可なく分解することはできません。リサイクルまたはメンテナンスのために、メーカーまたは指定されたアフターサービスセンターに引き渡す必要があります。バッテリーを捨てないでください。※1 ヶ月以上バイクを使用しない場合は、必ずブレーカーのスイッチを切るか、電源プラグを抜き、満充電の状態でご保管ください。※充電しない時は、充電口のキャップを閉めてください。

充電

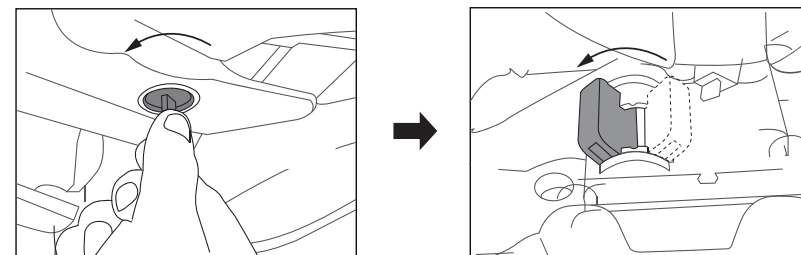
充電器を充電ポートに接続し、充電器を適切な 100V 電源に接続します。

バッテリーの取り外し充電

1. キースイッチが OFF になっていることを確認してください。電池収納部のロックにキーを挿入し、キーを反時計回りに回し、バッテリー収納部のカバーを開け、ブレーカーのスイッチをオフにします。

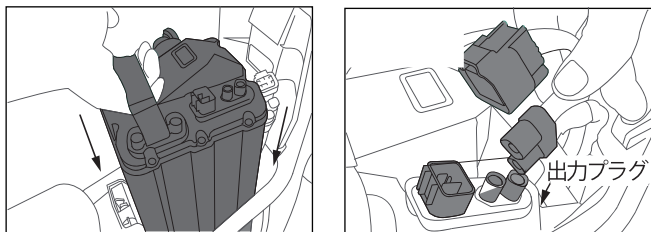
注：新しいバッテリー収納部の下にあるフォームは、バッテリーとの密着が大きいため、鍵だけではバッテリー収納部を開くことができない場合があります。その場合は、バッテリー収納部カバーを上から押してから開ける必要があります。

バッテリーをしばらく使用した後、バッテリーの底とバッテリー収納部の底部の間にスペースがある場合は、補助フォームパッドをバッテリー収納部の底に貼り付けて、バッテリーを安定させることができます。



バッテリーの取り外し充電

2. バッテリーから放電プラグと通信プラグを外します。
3. バッテリーを垂直に引き上げて取り出し、バッテリー収納室のカバーを閉めます。



4. 最初に充電器を充電ポートに接続してから、コンセント等の電源に接続します。
※チャージャーインジケーターが赤色に点滅している場合は、チャージャーが充電中であることを示します。バッテリーが完全に充電されると、緑色のライトが点灯したままになります。完全に充電されたら、電源を切ることを忘れないでください。バッテリーを車両に接続した後、ブレーカーをオンにしてください。



充電時の注意

充電中は、バッテリーを子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

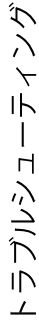
- 充電中は充電器を覆わないでください。この充電器は屋内用です。乾燥した換気の良い環境で使用してください。
- 異臭がしたり、充電器やバッテリーパックの温度が高すぎる場合や、数時間たっても満充電のインジケーターが表示されない場合は、ただちに充電を中止し、バッテリーを販売店に送って点検・整備を受けてください。



サーロン社純正リチウムイオンバッテリー充電器をご使用ください。充電器を交換する場合は、当社のバッテリーのモデルと一致する必要があります。バッテリーを車両に取り付けたり取り外したりする前に、ブレーカーをオフにしてください。電源ケーブルを接続したままプラグを抜き差しすると、電池の寿命が短くなる場合があります。ブレーカーがオンの状態で電源ケーブルを接続すると、火花が発生してプラグが損傷したり、バッテリーが損傷したりする可能性があるため危険です。充電器を電源に長時間接続したままにしないでください。

仕様	LIGHT BEE X オフロード版
車体サイズ:	1860x780x1050mm
最低地上高:	270mm
ホイールベース:	1255mm
シート高:	830mm
車重:	約45kg/56kg(バッテリー装着時)
Fr.サスストローク:	200mm
Rr.ショック/サスストローク:	87/210mm
パワーシステム:	Mid-drive BLDC motor + FOC sine wave controller
連続定格出力:	1KW (最大6KW)
最大トルク:	250N.m
最高速度:	75km/h
最大走行距離:	約75km(@40km/h)
バッテリータイプ:	60V / 40Ahリチウムバッテリー(脱着可能)
充電時間:	約4H
フレーム:	アルミ合金鍛造
Fr.&Rr.タイヤ:	70/100-19 (オフロードタイヤ)
ライディングモード:	スポーツ / エコ
USBポート:	5A/2.4 V
クラス:	競技専用
充電器PSE認証:	取得済み

仕様	LIGHT BEE L1e-C 公道版
車体サイズ:	1860x830x1245mm
最低地上高:	270mm
ホイールベース:	1255mm
シート高:	830mm
車重:	約47.2kg/59kg(バッテリー装着時)
Fr.サスストローク:	200mm
Rr.ショック/サスストローク:	87/210mm
ブレーキシステム:	CBS (コンバインドブレーキシステム) 搭載
パワーシステム:	Mid-drive BLDC motor + FOC sine wave controller
連続定格出力:	1KW (最大6KW)
最大トルク:	250N.m
最高速度:	45km/h (75km/h)
最大走行距離:	約75km(@40km/h)
バッテリータイプ:	60V / 40Ahリチウムバッテリー(脱着可能)
充電時間:	約4H
フレーム:	アルミ合金鍛造
Fr.&Rr.タイヤ:	70/100-19 (オフロードタイヤ)
ライディングモード:	スポーツ / エコ
USBポート:	5A/2.4 V
クラス:	小型限定普通二輪免許 (AT限定も含む)
充電器PSE認証:	取得済み

29

アイテム	故障原因	トラブルシューティング方法
充電が開始されない	1.充電器のコネクタが緩んでいる、または外れている 2.バッテリー電源ケーブルのコネクタが緩んでいる 3.バッテリーが過放電し、再起動が必要	1.プラグまたはコネクタをしっかり挿入 2.バッテリー収納部カバーを開き、プラグを正しく接続 3.バッテリーを動作させます
乗車時に異音が生ずる	1.チェーンの締め具合が不適切 2.ベルトの張り具合が不適切 3.ブレーキシステムが正しく取り付けられていない	1.二次チェーンの締め具合を調整 2.プライマリベルトの張り具合を調整 3.ブレーキ ディスクとブレーキパッドのほこりを削除、またはブレーキキャリパーが緩んでいるか、正しく取り付けられていない
その他異常	1. 上記の指示に従っても自分で解決または特定できない障害に遭遇した場合 2.モーター、コントローラー、充電器、バッテリーの破損	このような状況の場合、お近くの認定販売店にご連絡ください。許可なく上記の部品を分解しないでください。保証が無効になる場合があります。
電源を接続した後、充電器が正常に動作せず、バッテリー容量が表示されない	1. バッテリーが長期間充電されていないか、不適切に保管されている場合、バッテリーの過放電保護が発生	1. 最初に電源ACプラグを差し込み、次に充電器コネクタをバッテリーの充電ポートに接続し、電源・充電器のインジケータライトが赤と緑に交互に点滅します 2. 充電器と電源のコネクタを一度抜き差しします。充電器のインジケータライトが0.5秒の頻度で20 秒間、赤くすばやく点滅します 3. 20 秒後、赤いインジケータライトが10 秒間点灯し続けます。10 秒以内に充電器の電源 ACプラグを一度抜き差ししてください 4. 充電器が強制充電モードに入り、充電プロセスが開始されます 注意: A. ステップ 2 で 20 秒の間に電源AC プラグを抜き差ししないでください。失敗した際はステップ 1 からやり直して下さい B. ステップ 3 の電源ACプラグを抜いて再接続するプロセスは、赤いライトが点灯してから10 秒以内にを行う必要があります。失敗した際は、手順1 からやり直して下さい

メンテナンスガイド

原則として、初回点検（初回整備）は、10 ～ 30km の正常走行にて完了となります。

部品の確認

1. 前後輪のスプークの張り具合。
2. ヘッドセットに隙間がないかの有無。
3. チェーンの張り具合をチェックします。
4. ベルトの締め具合検査。（新しいベルトには多少の摩擦がある場合があります、ベルトの両側にワックスを付けることも可能です）
5. サスペンションの調整。オイル漏れの有無、圧縮・リバウンドの確認（注：調整中は、極端な位置に調整ノブを回さないでください）
6. ハンドルバーのすべてのボルトがしっかりと締まっていることを確認します。



メンテナンス プロセス全体でバイクの電源を入れることはできません。つまり、バイクの電源を入れたままメンテナンスを行うことはできません。

検査中は安全に十分注意してください。

1. 広くて平らな場所に駐輪してください。
2. 検査が必要な場合は、安全な場所で細心の注意を払って実施してください。
3. 検査中に異常があった場合は、乗車前に異常を是正してください。

問題の解決が困難な場合は、購入販売店にお問い合わせください。



1. 前後ブレーキはディスクブレーキです。ブレーキパッドの磨耗が激しい場合は、早めに交換してください。
2. ディスク ブレーキ システムはを日常的に清潔に保ち、長期にわたる堆積物、特に油脂の付着を避けてください。

日常点検

1. サスペンションに曲がり、変形、損傷がないか確認してください。

フロントフォークに破損、緩み、オイル漏れなどの異常がないか点検してください。ハンドルバーを上下させ、フロントフォークに起因する異音がないか確認します。

フロントフォークが故障した場合は、購入販売店にご連絡ください。

2. ブレーキの点検

ブレーキレバーの空きスペースが規定範囲内（15 ～ 30mm）にあるか確認してください。

3. 車両点検時は乾いた平坦路を低速で走行してください。

フロントとリアのブレーキをそれぞれ使用して、ブレーキの効きを確認します。

4. タイヤの点検

タイヤは、地面のガラス、石、その他の物質によって損傷を受けますので走行時は路面状況にご注意ください。

タイヤが傷つきやすい場所での走行は避けてください。さらに、タイヤに亀裂やその他の損傷がないか確認する必要があります。

1) 冷却状態で、タイヤ空気圧ゲージでタイヤ空気圧を確認します。

2) 亀裂、損傷、異常摩耗がないか確認してください。

3) ホイールのスポークが緩んでいないか確認してください。

4) チェーンの張り具合を確認してください。上下 10 ～ 20mm。

5) タイヤの溝の深さを確認してください。

タイヤの摩耗、溝の深さをチェックします。摩耗が凸ブロックの 2/3 に達した場合、タイヤは交換時期です。タイヤに異音や振れがある場合は、購入販売店に点検・整備を依頼してください。

ピボット シャフトナットの固定トルクは 30 N・m、リアアクスルの固定トルクは 40 N・m です。

フロントアクスルの固定トルクは、フロントフォークによって異なります。



1. ベルトテンションは出荷時に調整済みです。適切に整備ができる方以外は調整しないでください。
2. ブレーキレバーをしっかりと握ってもブレーキの効きが悪い場合は、ブレーキディスクを脱脂・清掃するか、販売店にご相談下さい。

バッテリーの点検

1. バッテリー残量の確認

バイクは密閉型リチウムイオンバッテリーを搭載しています。点検の前にバッテリーを完全に充電する必要があります。適正な満充電電圧は 67 ～ 67.2V です。

2. バッテリーの外観を確認する

バッテリーの上下のシーリングキャップや液晶画面が破損していないか確認してください。

シーリングが破損すると、電池ケース内部に水が入る原因となります。電池ケースやキャップが破損している場合は、お近くの正規販売店にご連絡ください。



1. バッテリーの取り付けまたは取り外しの前に、キースイッチを回して電源を切り、ブレーカーを切って充電ポートのキャップを閉じます。
2. バッテリーをバッテリー収納部に入れることができない場合は、バッテリーがケーブルハーネスなどに引っかかっているか確認してください。
3. 冬季は、バッテリーを保管する室内温度を 0° C (32° F) 以上にし、バッテリー残量を定期的にチェックすることをお勧めします。

充電と充電器について

1. 充電するときは、純正充電器を使用する必要があります。非純正の充電器は使用しないでください。バッテリーが損傷し、重大事故につながる可能性があります。

2. 充電器の入力電圧が電源の電圧と同じかどうかを確認します。

3. 充電器を電源に長期間接続するのは避けて下さい。

4. ユーザーがバッテリーを分解することは禁止されています。許可なくバッテリーを分解すると、事故に繋がる可能性があります。

5. バッテリーが過放電保護されている場合は、再起動する必要があります。アクティベーション方法は P31 <トラブルシューティング>をご参照ください。

モーター・コントローラーのメンテナンス



モーターとコントローラー温度が高温やバッテリー容量が低すぎる場合、バイクは自動的に電力を減らしてパワートレインを保護します。

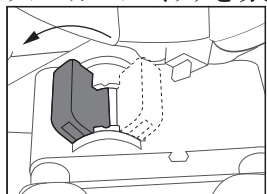
1. モーターの取り付けボルトの締め具合を定期的を確認してください。
2. モーターとコントローラーの絶縁状態を定期的を確認してください。
3. ヒューズの状態を定期的を確認してください。
4. 水没した場合モーターの故障に繋がります。

ヒューズ交換

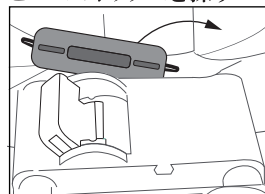
ブレーカースイッチ、キースイッチを ON にしてもスピードメーター、クラクション、ヘッドライトが作動しない場合は、ヒューズが溶断している可能性があります。ヒューズを交換する必要がある場合は、最初にブレーカーをオフにします。操作方法は次のとおりです。

バッテリー収納部カバーを開け、ブレーカーを切り、バッテリーを取り出し、ブレーカーの奥にあるヒューズボックスを開けます。(ヒューズボックスは黒い絶縁テープで包まれています)

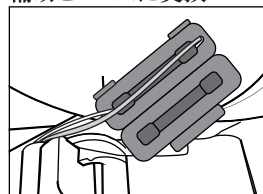
ブレーカーのスイッチを切る



ヒューズボックスを探す



補助ヒューズに交換



1. ヒューズはヒューズ台にしっかりと固定してください。ヒューズ接続部に緩みがあると急激に発熱し、他の故障の原因となります。
2. ヒューズを正しい仕様の物に交換します。ヒューズが一致しない場合、システムを保護できない場合があります。
3. 交換後にヒューズが再び溶断した場合は、関連するすべての回路上に短絡があるかどうかを確認します。
4. ヒューズに高圧洗浄機を直接使用しないでください。

保証条件と保証期間について

Qiulong Technology Co., Ltd. (以下“弊社”) は、この保証条件に記載されている期間中、弊社が認定した正規販売店から購入した新品の車両について、材料および製造上の欠陥に対して保証し、保証の条件は特定の制限があります。この保証は、車体が正規販売店により組み立て・整備され、引き渡された場合にのみ適用されます。本説明書及び車体に付帯しているその他の車体関連の資料をもとに、正しい操作とメンテナンスをすることで適用されます。

車体保証期間について

①Light Bee L1e-C 公道版

期間：購入日から 12 カ月または走行距離 5,000 kmのいずれか早い方を適用。

保証継承について：最初の所有者は既定の保証期間残を次の所有者に譲渡することができる

②競技会で使用していない Light Bee X オフロード版

期間：購入日から 6 カ月

保証継承について：保証は最初の所有者のみに限定

③Light Bee L1e-C 公道版 /Light Bee X オフロード版で競技会使用した場合

期間：購入日から 30 日

保証継承について：保証は最初の所有者のみに限定

Qiulong Technology Co., Ltd. の車体は、収益を生み出す商用目的 (例：リース等) での使用や、商用ライセンスや認証取得していない等の無許可での使用の場合、保証期間は購入日から 30 日とします。保証期間は最初の所有者の購入日から始まり、かつ上述の保証条件を満たしている場合にのみ有効となります。

保証対象パーツについて

万が一、車体のパーツに欠陥があり人的な交換が必要な場合、修理やメンテナンスは弊社の承認のもと行う必要があります、承認を経ずに交換したり、《Light Bee シリーズ使用説明書》保証に含まれていないパーツの場合適用外になります。

保障の制限

この保証条件は以下に起因する故障には適用されません：

1. 車体関連の説明書に従って適切な操作もしくはメンテナンスがされていない場合。
2. 弊社純正品以外のパーツもしくは中古のパーツへの変更、交換、取付
3. 事故、衝突、破壊行為、不適切な操作、乱用、過失および競技試合もしくはそれに同等する乗車による損傷。
4. 弊社純正品以外のモーター、モーターコントローラー、バッテリーの改造、交換、取り付け。
5. 通常の消耗パーツ、定期的なメンテナンス、使用や経年劣化によるパーツ交換などにかかわるパーツ。また、下記パーツも保証の対象にはなりません：タイヤ、ブレーキパッド、ディスクブレーキ、チェーン、ブリップ、スイングアーム保護ブロック、ベルト、全てのプーリー、全てのスプロケット・ベアリング・シールパーツ、ペダル、シート
6. エラーコードが表示されている状況下で走行したことによる損傷、故障や性能問題。
7. 車体に不適切な化学剤を使用した場合。
8. 非純正の電子機器を取り付けたことによる損傷、故障、性能問題。

弊社が認定していない車両または付属品には適用されません。転売目的での購入はできません。もし、弊社が転売目的の購入と判断した場合、弊社はお客様の注文および保証サービスを拒否、またはキャンセルする権利を有します。

車両所有者の責任

1. 《Light Bee ユーザーズマニュアル》に記載されているスケジュール表に従って車両をメンテナンスしなければなりません。
2. 所有者は、定期的なメンテナンスをし、その費用を負担します。メンテナンス不足または不切なメンテナンスによる故障は保証の対象外となります。
3. もし修理が必要な場合は、必ず正規販売店で修理を行ってください。その際に、以下のメンテナンス書類を要求されることがあります。サービスの日付と完了した特定の保守項目を示す保守記録、保守注文書と領収書のコピー、バッテリーの履歴データおよび所有者のメンテナンスにかかわるパーツの明細書（交換部品の領収書を含む）等。これらを提出し、保証サービス完了となります。
4. もし車両を販売や貸し出し、その他の方法で人に譲る場合は、安全警告に関するすべて、保証内容を伝えて下さい。
5. もしパーツに不具合を発見した場合は、10 日以内に購入販売店に連絡してください。正規販売店はまず、関連のパーツを弊社に返却するか確認する必要があります。すべての修理作業は必ず正規販売店が行ってください。
6. Light Bee に乗る際には、各国や地域が定めた法律を遵守してください。
7. 弊社は、車体の所有者から提出された修理パーツに関する最終処理の決定権を持ち、この保証に基づいて交換され、弊社に返却されたすべての部品およびコンポーネントの所有権は弊社に帰属します。

修理制限

本説明書に記載されている保証は、車両の保証にのみ適用されます。当社は、明示的、黙示的、またはその他の形式の保証を行うものではなく、他者に代わって他の義務または責任を負うことを想定または許可するものではありません。商品性または特定の目的への適合性の保証を含む、商品性のすべての黙示的保証は、本保証に記載されている保証期間に限定されます。この保証は、使用不能、車両価値の損失、利益または収益の損失、個人財産の損失または損害を含む、すべての継続的、間接的または懲罰的損害に対する責任にも適用されません。また、第三者の請求についても責任を負いません。

弊社は、車両や動力システム、製品のその他の設計をいつでも変更または改善する権利を留保し、また、すでに弊社が製造や販売した製品を変更する義務を負うことはありません。一部の地域および法域では、偶発的または間接的な損害の除外や制限、黙示の保証または条件期間の除外や制限を認めておらず、上記の制限または除外がお客様に適用されない場合があります。この明示的な限定保証は、お客様に具体的な法的権利を与えるものであり、地域または管轄区域によって異なるその他の権利を有する場合があります。また、ここに記載されている内容は予告なしに変更されることがあります。

アフターメンテナンスの受けかた

アフターメンテナンスが必要な場合は、下記手順に従って行ってください：

1. 正規販売店の業務時間内に連絡をします。
2. 弊社にアフターメンテナンスを要求する際は、該当する Light Bee と保証書を正規販売店に持って行く必要があります。
3. あなたの車両の故障内容が弊社のアフターメンテナンスの条件範囲に当てはまる場合、弊社は保証条件に従い無償のアフターメンテナンスを提供します。もし、それに当てはまらないと弊社が判断した場合は、有償となります。
4. 車体に不具合があると、転倒や衝突、人身事故などを引き起こす可能性があるため、すぐに正規販売店に連絡をしてください。

最後に：

我々はできる限り早く修理作業の完了に努めておりますが、想定外の状況などによる作業の遅れに対して、責任を負いかねます。想定外の状況には以下も含まれます：パーツの不足、運送関連の遅延、不可抗力等。

100KM

車台番号		走行距離数		点検年月日	
アフターメンテナンス記録 ☐ 車両の作動状態・異音の有無 ☐ 車両低速・加速の状態 ☐ ハンドル操作具合 ☐ フロントフォーク ☐ ホイール (空気圧・タイヤの亀裂・損傷・摩耗・ネジの緩み・ベアリングがたなど) ☐ ブレーキ点検 ☐ 電気・保安装置点検 (バッテリー・電気配線・スイッチ) ☐ その他					
その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等					
点検又は整備を実施した販売店					

500KM

車台番号		走行距離数		点検年月日	
アフターメンテナンス記録 ☐ 車両の作動状態・異音の有無 ☐ 車両低速・加速の状態 ☐ ハンドル操作具合 ☐ フロントフォーク ☐ ホイール (空気圧・タイヤの亀裂・損傷・摩耗・ネジの緩み・ベアリングがたなど) ☐ ブレーキ点検 ☐ 電気・保安装置点検 (バッテリー・電気配線・スイッチ) ☐ メンテナンス周期表にご参考 ☐ その他					
その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等					
点検又は整備を実施した販売店					

1000KM

車台番号		走行距離数		点検年月日	
アフターメンテナンス記録 ☐車両の作動状態・異音の有無 ☐車両低速・加速の状態 ☐ハンドル操作具合 ☐フロントフォーク ☐ホイール(空気圧・タイヤの亀裂・損傷・摩耗・ネジの緩み・ベアリングがたなど) ☐ブレーキ点検 ☐電気・保安装置点検(バッテリー・電気配線・スイッチ) ☐メンテナンス周期表にご参考 ☐その他					
その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等					
点検又は整備を実施した販売店					

2000KM

車台番号		走行距離数		点検年月日	
アフターメンテナンス記録 ☐車両の作動状態・異音の有無 ☐車両低速・加速の状態 ☐ハンドル操作具合 ☐フロントフォーク ☐ホイール(空気圧・タイヤの亀裂・損傷・摩耗・ネジの緩み・ベアリングがたなど) ☐ブレーキ点検 ☐電気・保安装置点検(バッテリー・電気配線・スイッチ) ☐メンテナンス周期表にご参考 ☐その他					
その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等					
点検又は整備を実施した販売店					

5000KM

車台番号		走行距離数		点検年月日	
アフターメンテナンス記録 ☐車両の作動状態・異音の有無 ☐車両低速・加速の状態 ☐ハンドル操作具合 ☐フロントフォーク ☐ホイール(空気圧・タイヤの亀裂・損傷・摩耗・ネジの緩み・ベアリングがたなど) ☐ブレーキ点検 ☐電気・保安装置点検(バッテリー・電気配線・スイッチ) ☐メンテナンス周期表にご参考 ☐その他					
その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等					
点検又は整備を実施した販売店					

10000KM/12月

車台番号		走行距離数		点検年月日	
アフターメンテナンス記録 ☐車両の作動状態・異音の有無 ☐車両低速・加速の状態 ☐ハンドル操作具合 ☐フロントフォーク ☐ホイール(空気圧・タイヤの亀裂・損傷・摩耗・ネジの緩み・ベアリングがたなど) ☐ブレーキ点検 ☐電気・保安装置点検(バッテリー・電気配線・スイッチ) ☐メンテナンス周期表にご参考 ☐その他					
その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等					
点検又は整備を実施した販売店					

保証書

購入者氏名：

住所：

電話番号：

車体番号：

コントローラー番号：

モーター番号：

バッテリー番号：

販売店名：

※販売店名、扱い者印を確認下さい。
保証書は再発行致しません。

住所：

車両購入日： 年 月 日

電話番号：

購入車両名：

保証修理受け方

- * 保証修理をお受けになる時は必ず保証書をご提示ください。
- * 保証書に必要事項の記載がない場合は補償の対象となりません。
- * 購入販売店に保証修理をお申し付けください（補償内容事項を確認の上）